兒雷也

三十三編

柳亭種員作
梅蝶樓國貞画

甘泉堂記

へ13
3877
17

兒雷也豪傑譚 三拾三編
仆題豊国画
前
甘泉堂

門へ13
3877
巻17

児雷也三十三編 上集

あらうの多代
國さらの多吉
甘々の半
寿梓

高坐ゐ登て蠟燭の中心を剪て先白湯を喫張扇の音二三乾さる咳ゐ扨昨夜の半説ゐると軍談師ゐ〳〵必ゐべき管領記の大修羅場汗馬い妻東西ゐ駈廻旗い南北ゐ飄と頻ゐどんちゃん闘戦をゐるも稗史ゐ不相應ゐ色氣ゐ取出て女武者綱手を擁護蛞蝓僊と面倒き事ゐかゐて伝言ゐゐゐ時い蚰蜒仙人柿八年柚い九箇年以前〳〵拙作ゐ綴る児雷也も既ゐ卅三編目ゐ下手の長譚と辞〳〵てもなゐ〳〵板元ゐ行燈を消有様なゐ看官い殆退屈の眠ゐこゐ〳〵ゐ船軍果い如何的駿河勢ゐ相摸の海れ難戰場ゐ彼大勇婦ゐ今川殿の主従を救迫ゐて一集ゐ讀止と後談ゐ明年の新春発兒ゐ言上べ〳〵

安政戊午正月

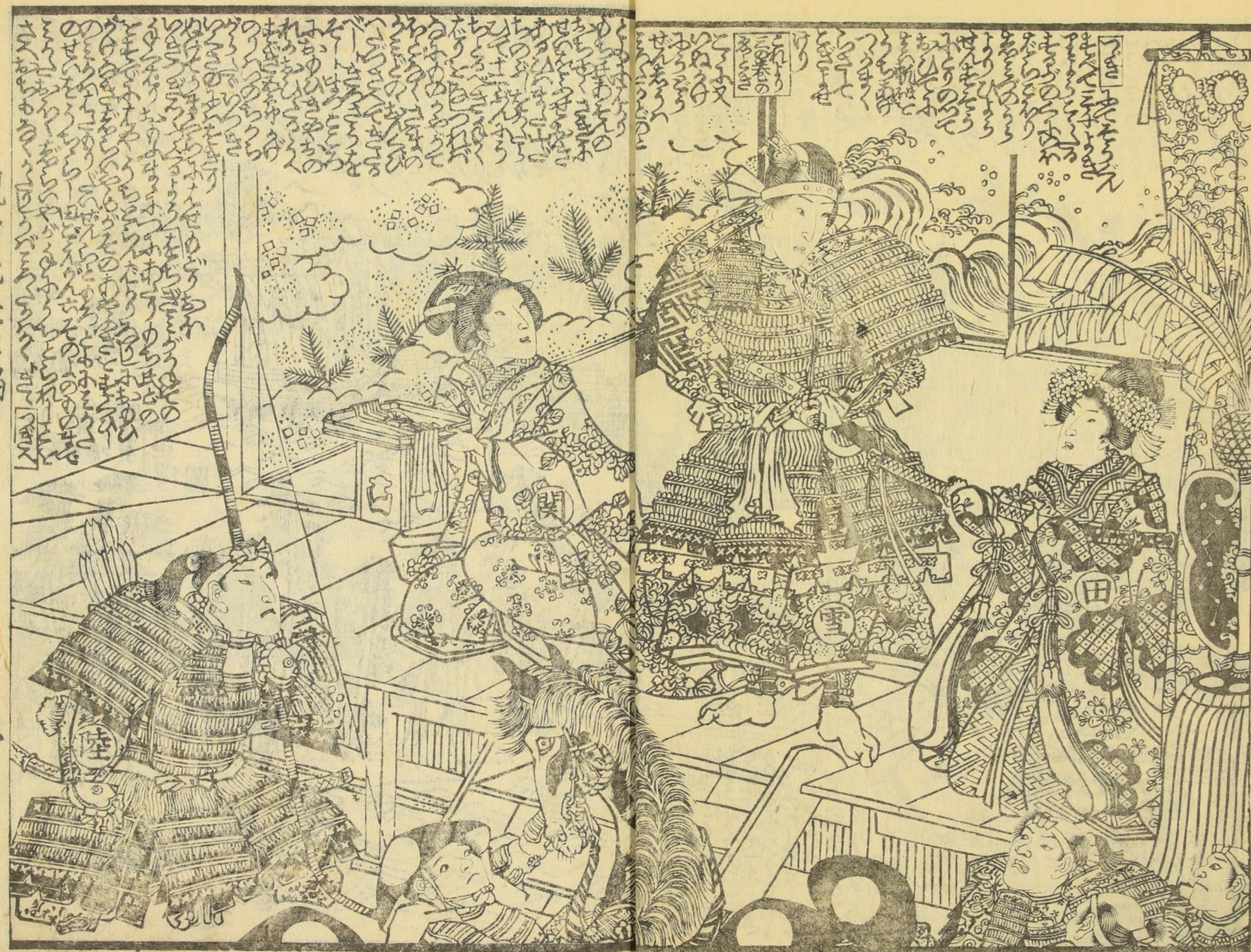
柳下亭種員識

足利右馬頭満隆
世人新御堂殿と号
尾形周馬寛行

茜染半七
美濃屋三勝
刀屋女於花

兒雷也廿三編
細手が勇力
大蛇丸が
水軍と
打破
兒雷也廿三編

雪
坐
典


つき
これより三人美女の名ときとなる
陸
関
雪
田

今川家の軍艦鎌倉へ押寄る圖

柳煙亭種久作
一壽齋國貞画

忠臣貞婦 沙呂波文庫

初編二編合本
表紙一冊別と成る

柳下亭種員校
一陽齋豊國助
梅素亭玄魚補

仮名反古 一休草紙 十編 十一編 十二編
柳下亭種員作
一雄齋國種画

小女郎蜘蛛草環 三編 大尾
曲亭馬琴作
一勇齋國芳画

照天松操月鹿毛 五編 六編 大尾
春風亭柳枝作
一雄齋國燈画

風俗浅間嶽 六編 七編
種員校合
種久抄録
國貞画

柳下亭種員作

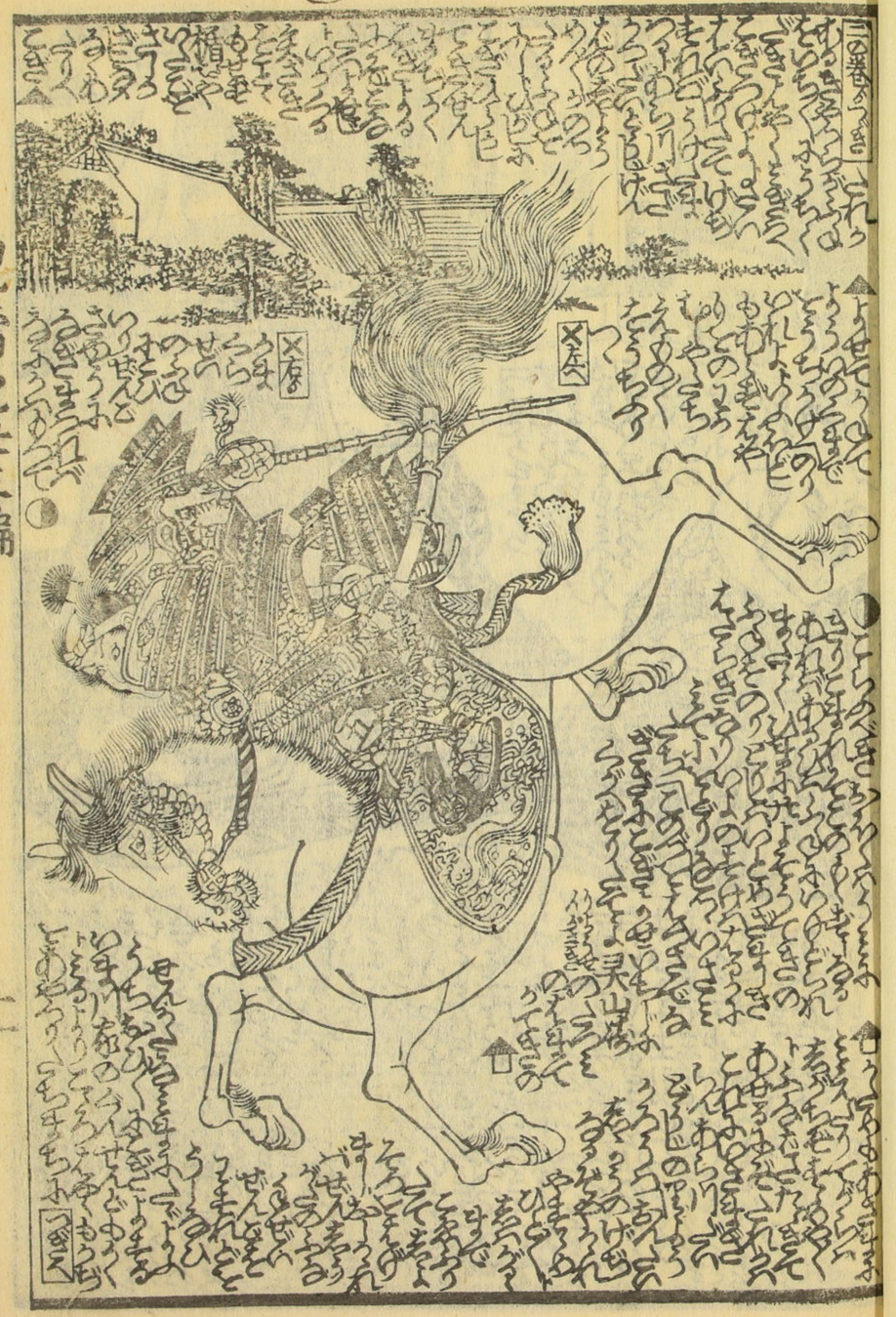
梅蝶樓國貞画

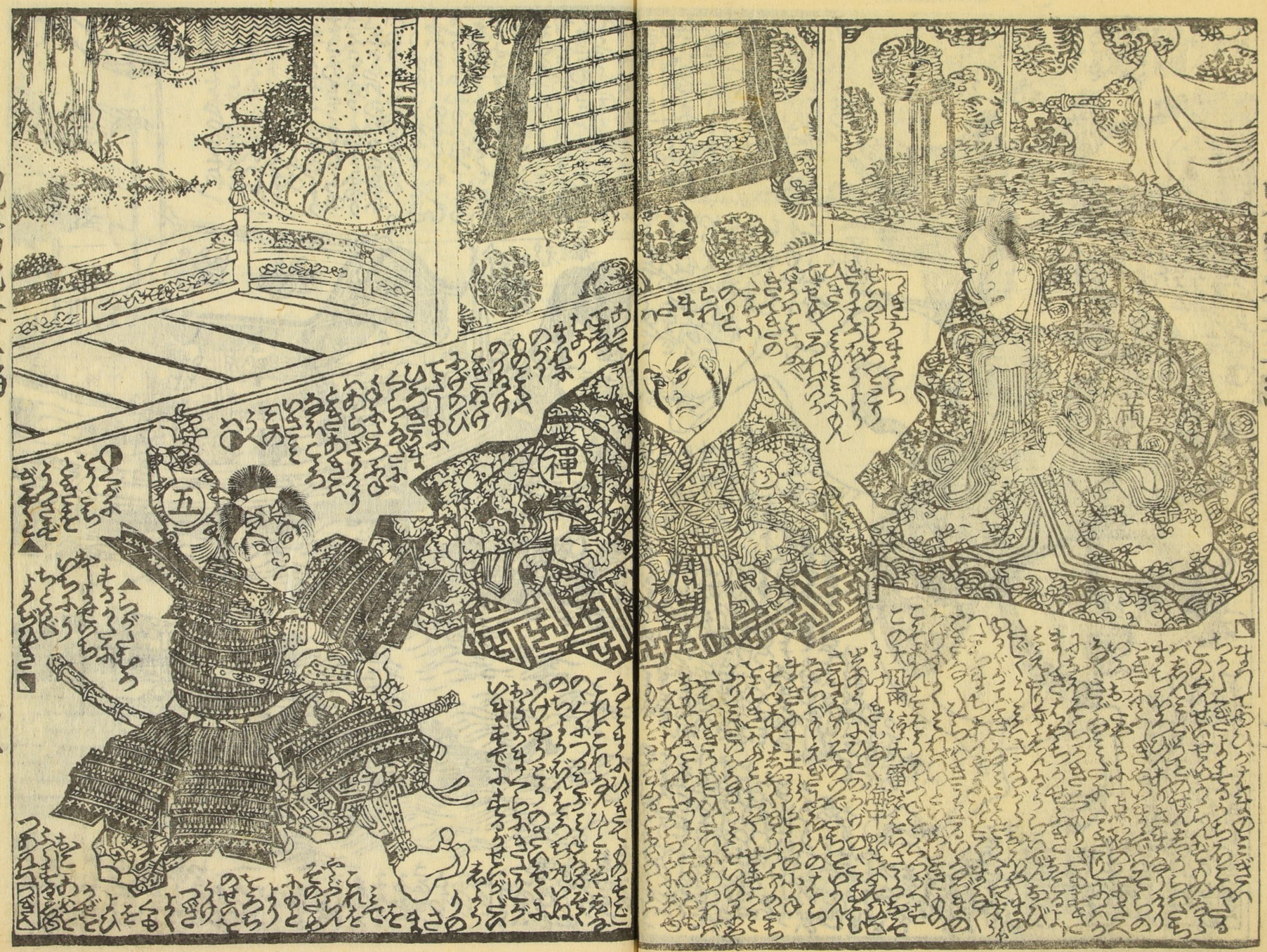
兒雷也

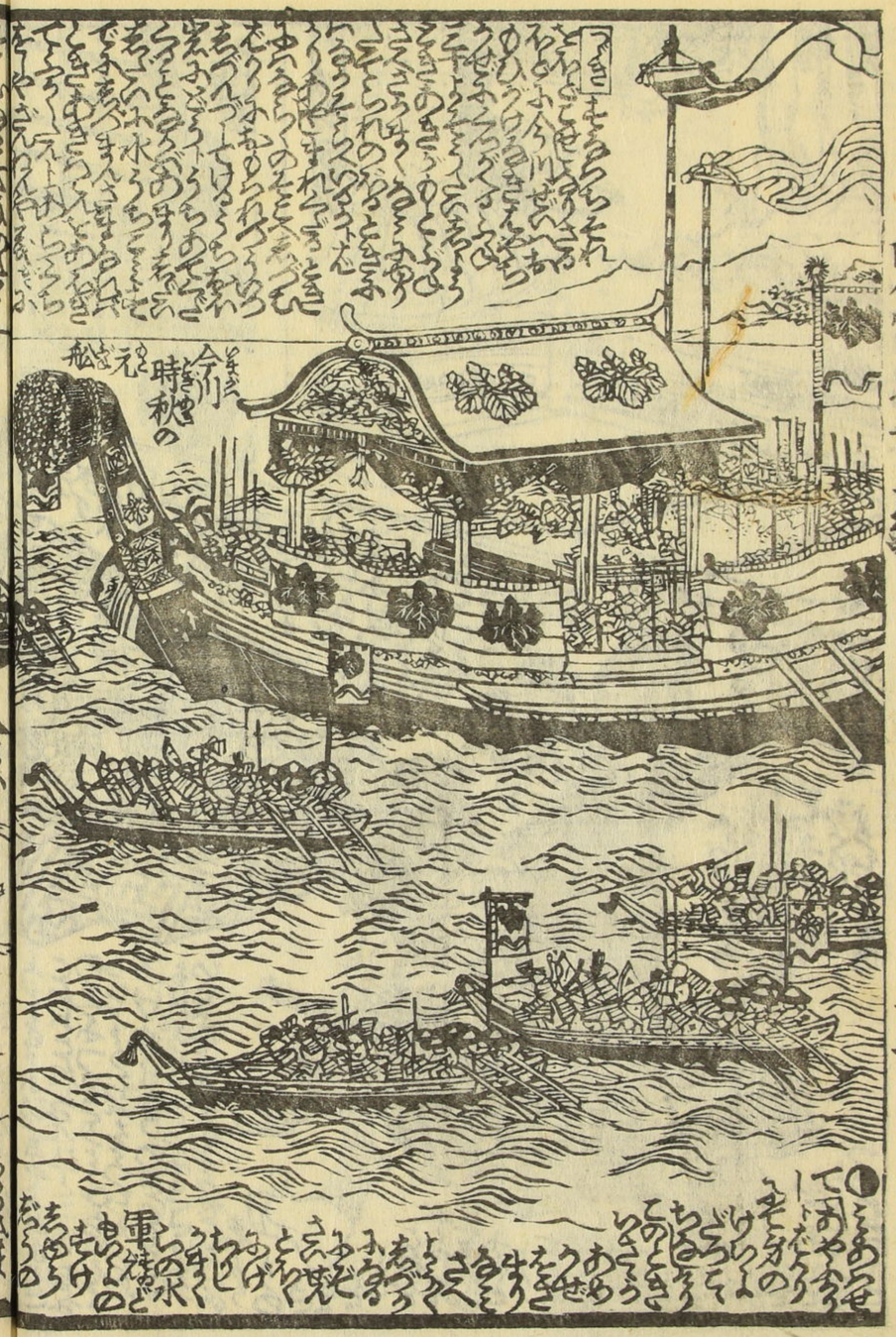
三十三編

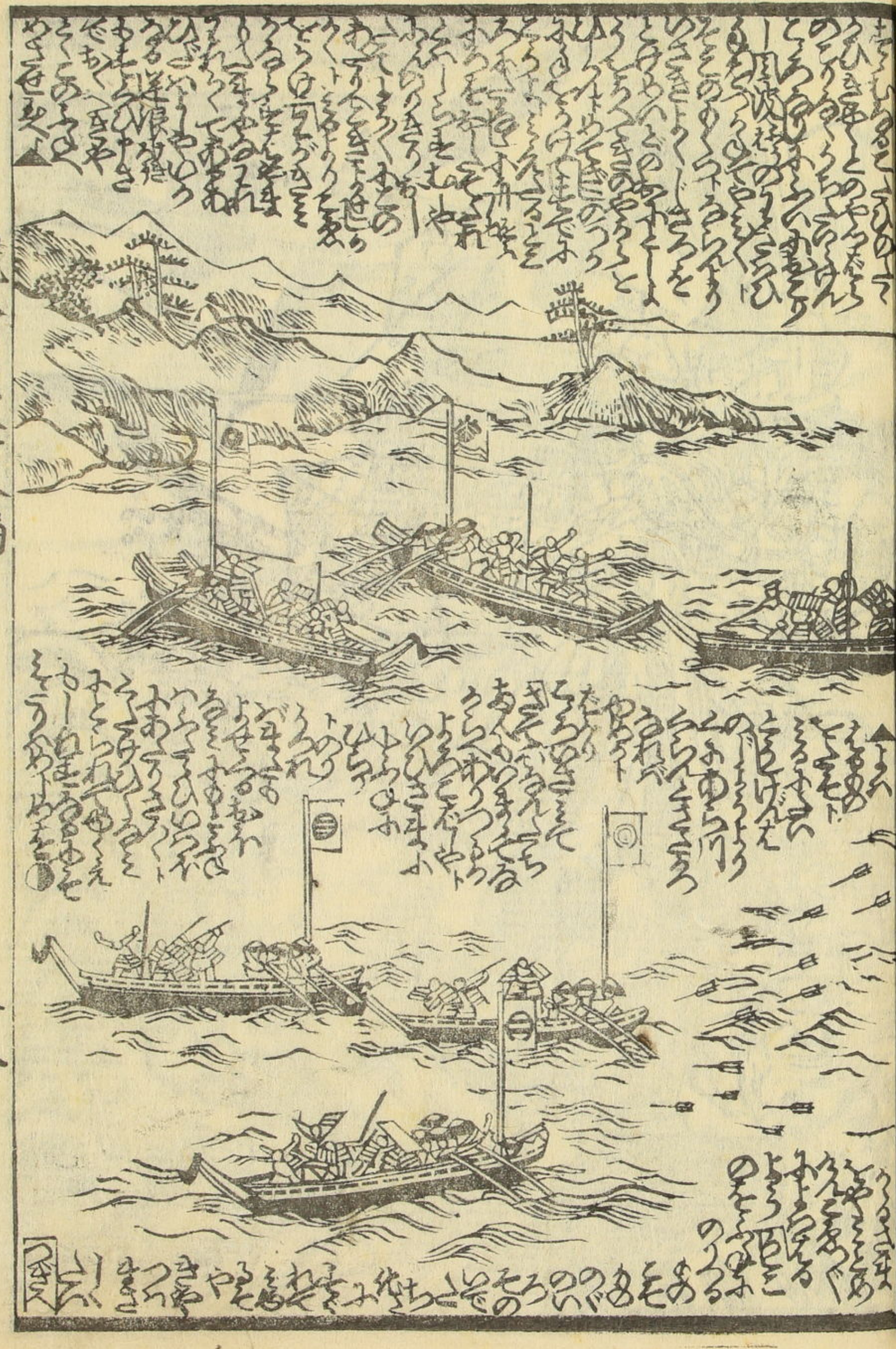
下冊

種員作
ふくれ子忘
きんいち
なつまと



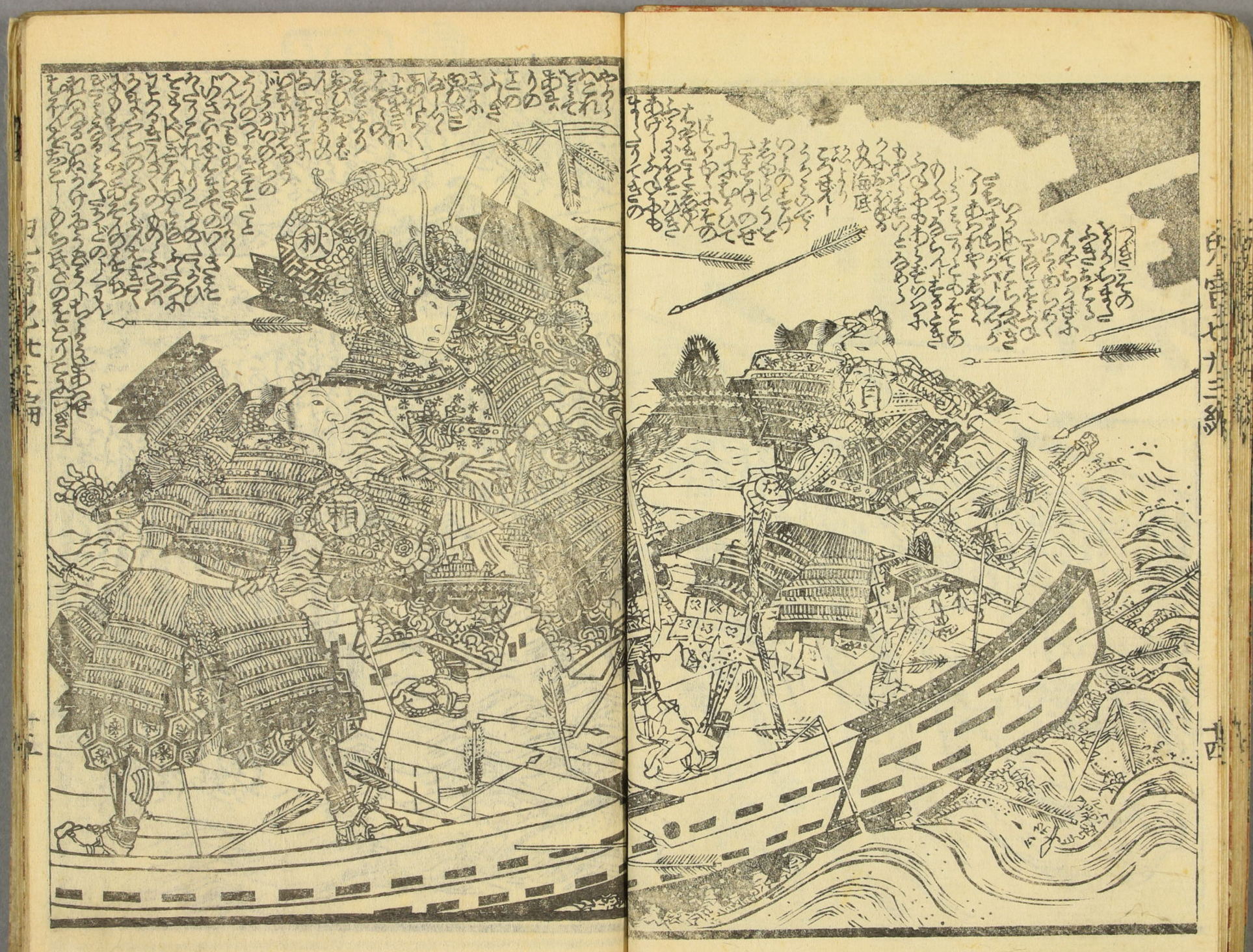

五
禪


今川時秋の船元



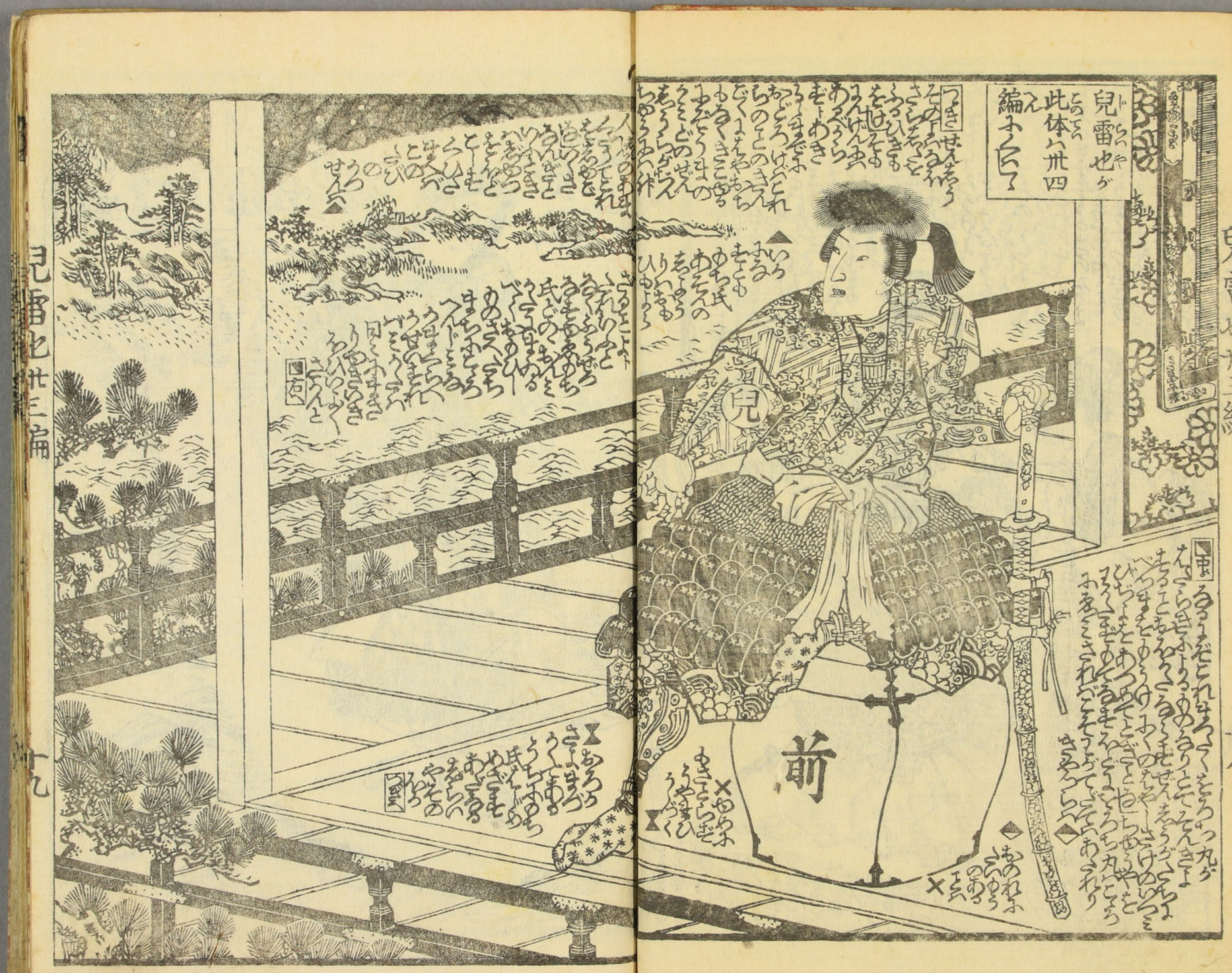
つぎ

ゆきかへるとき
うちかけるとき
ひきかへるとき
ひきかへるとき
ひきかへ


秋
月

現
左へ
右へ

禪
蛇


兒雷也ゲ
此体ハ卅四
編ム
前
兒

兒雷也井三編

源平打毬双六

女郎花五色石臺 八編 九編 折下方種員作 一雄齋國貞画

新編金瓶梅 初編 十編 三編 大尾 曲亭馬琴作 一陽齋豊國画

黄金水大学盃 七編 八編 生板 為永美水作 歌川國貞画

一猛齋芳虎画 三十六歌仙詠色双六

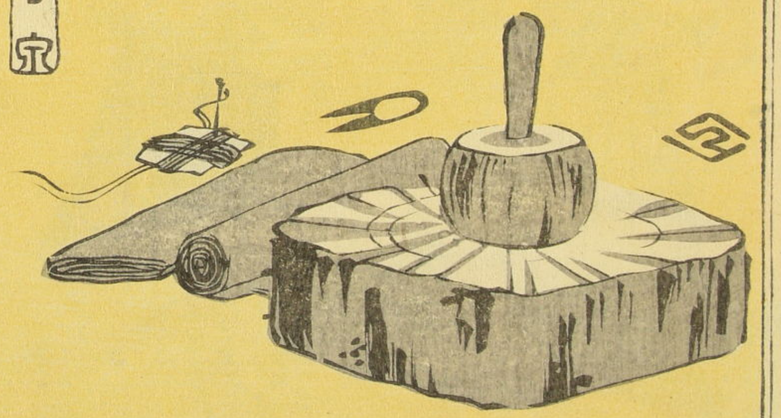
柳亭種員作 兒雷也豪傑譚 一壽齋國貞画 卅一編 卅二編 卅三編

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板

兒雷也豪傑譚三十四編

古京堂作

柳下亭著作
一寿斎国貞
之集
児雷也
三拾四編



上代の通言ふ物事十分ふ行渡る吏と譬諭て谷潜の秋波極と
いふ語ありてたふぐい蟾蜍の古名ありとぞ東海道大井河の上三里
ばかりに山の谷ふ蟇の大なるがありて其辺の人ハたんらく又らんぐとよぶ
此物性得静ふして人ふ懼ず童の捕繫ぶき或い桶樋ふ襲ひくゐいろの
間ふ脱去と島田宿の服部とりく久の話ハ再聞虚實いまゝねと蝦蟇
の妖術證故い則此本ふて谷潜の谷と出行らの所へらぐとりふ
障碍のあれ如く津く浦くまゝ行きいらくぬ里ふ化流布繪双紙ちらるぐ
蟾蜍なくぬひくきの御蔭とありがく其義誌ーと序文とあすのこ

安政己未新春

柳下亭種員記

羽衣松の精
兒雷也

隈浦藤内
全藤六

再出
尾形周馬寛行
契情岸川

秋
貞
頼

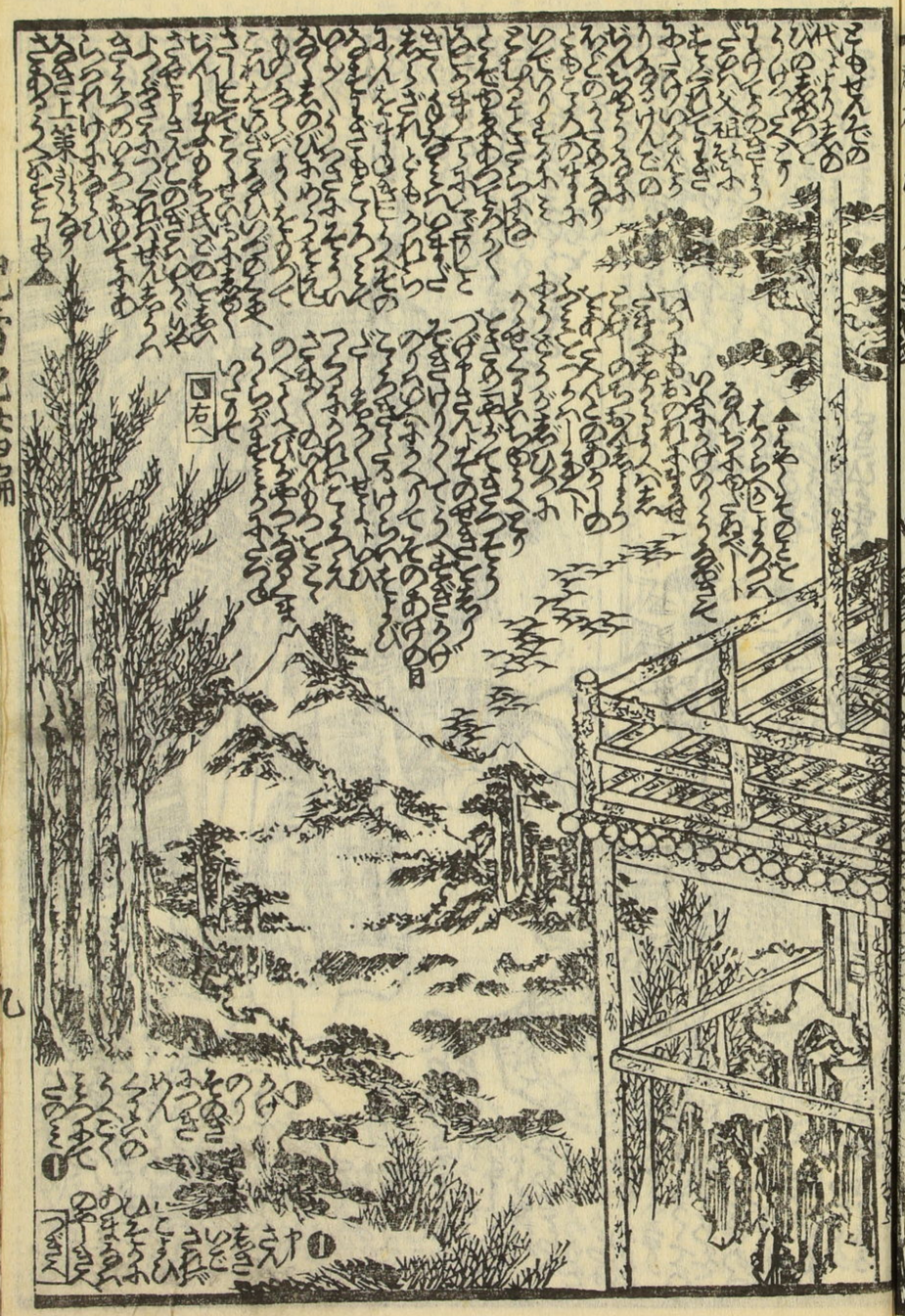
つぎき
頼
秋

白

五
禅
つぎへ

禪
五
圓

内
六



六
五

内

種員作國貞画

柳煙亭種久作
一壽齋國貞画

忠臣蔵
沙門俊
文庫
初編二編出板
表紙一冊別に有り

柳下亭種員校
一陽齋豊國助
梅素亭玄魚補

仮名反古 一休草紙 十編 十一編 十二編
柳下亭種員作
一雄齋國瀧画

小女郎蜘蛛塚 三編
曲亭馬琴作
一勇齋國芳画

照天松操月鹿毛 五編 六編
春風亭柳枝作
一雄齋國瀧画

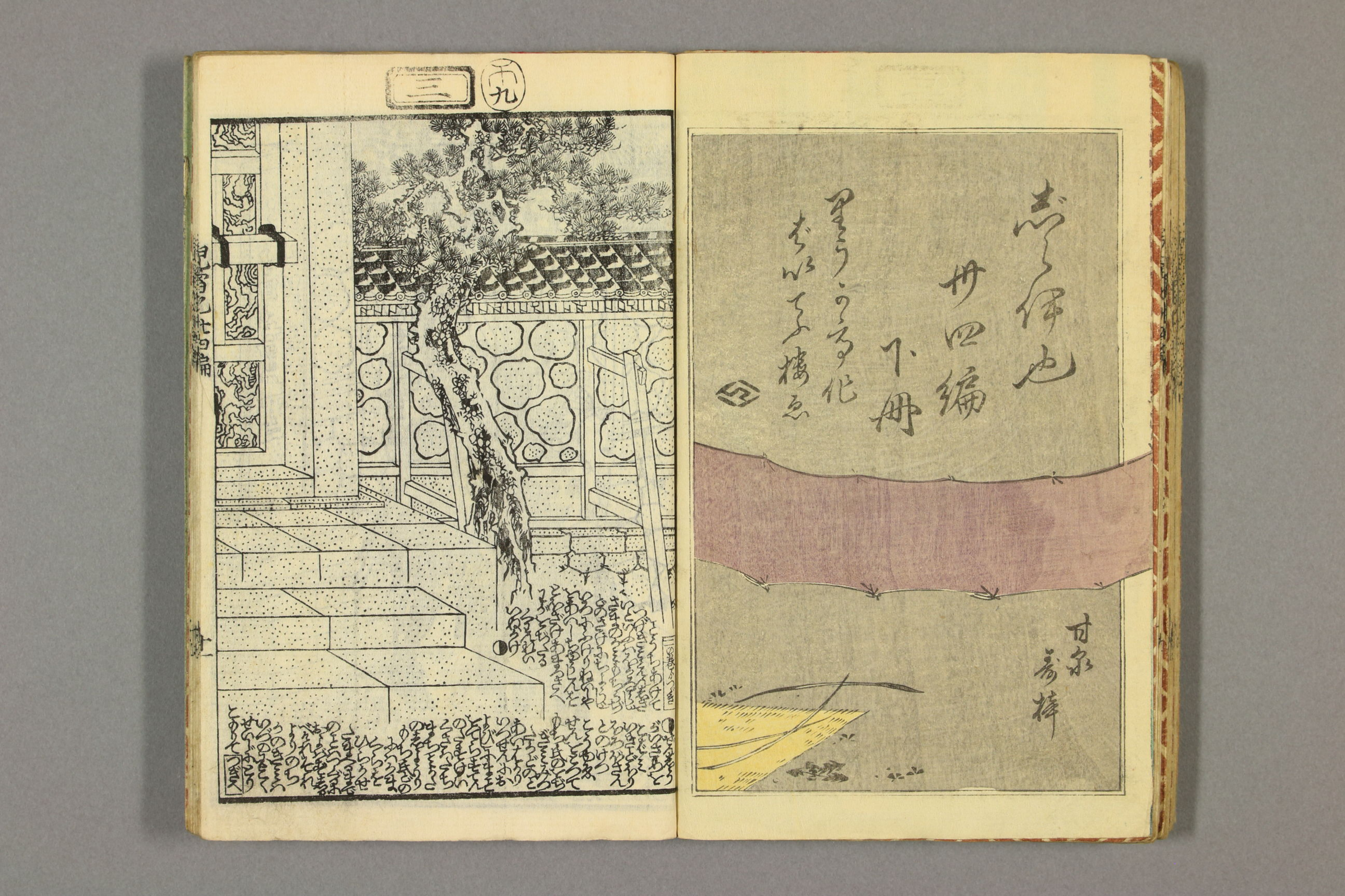
風俗浅間嶽 六編 七編
種員校合
種久抄録
國貞画

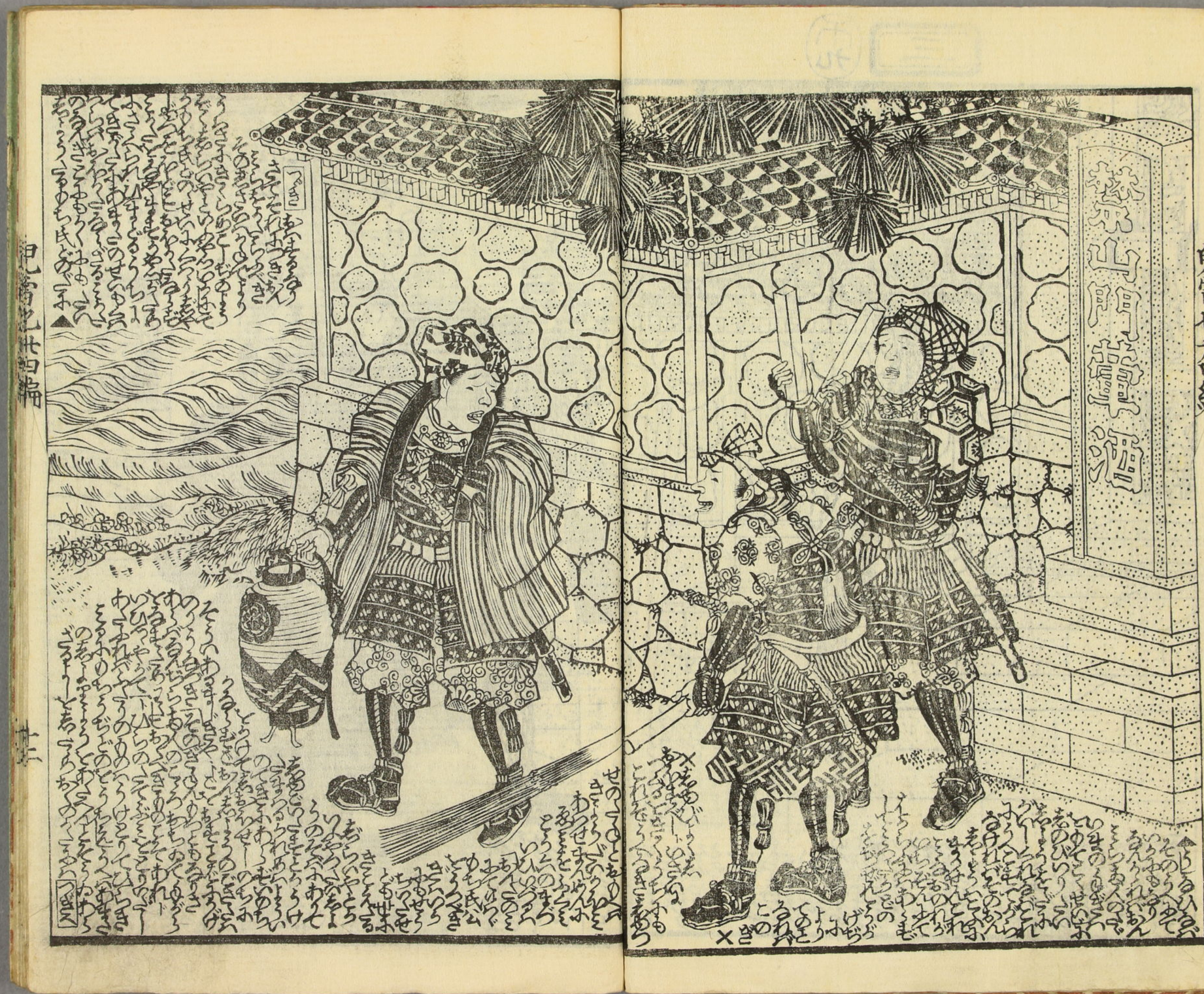
柳下亭種員作

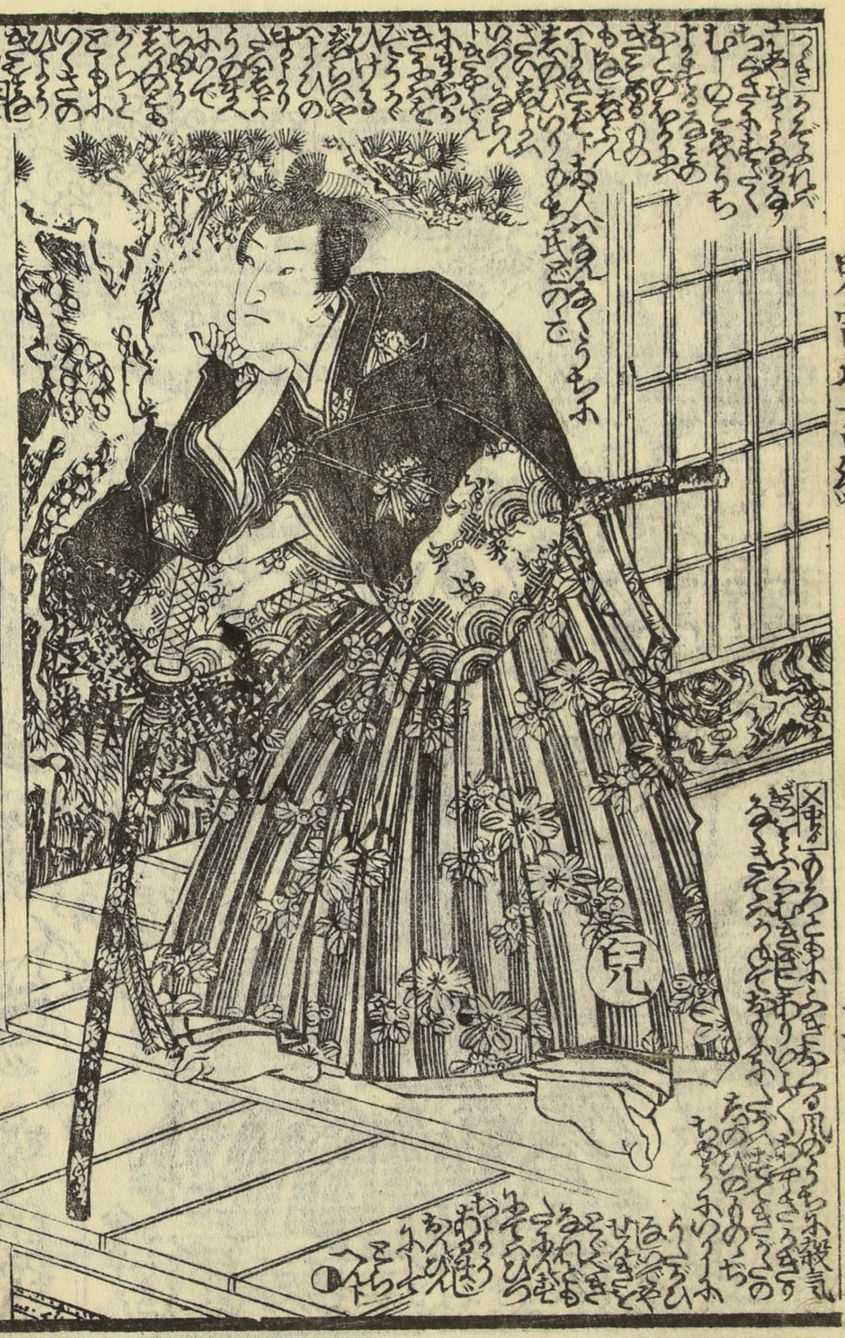
一壽齋國貞画

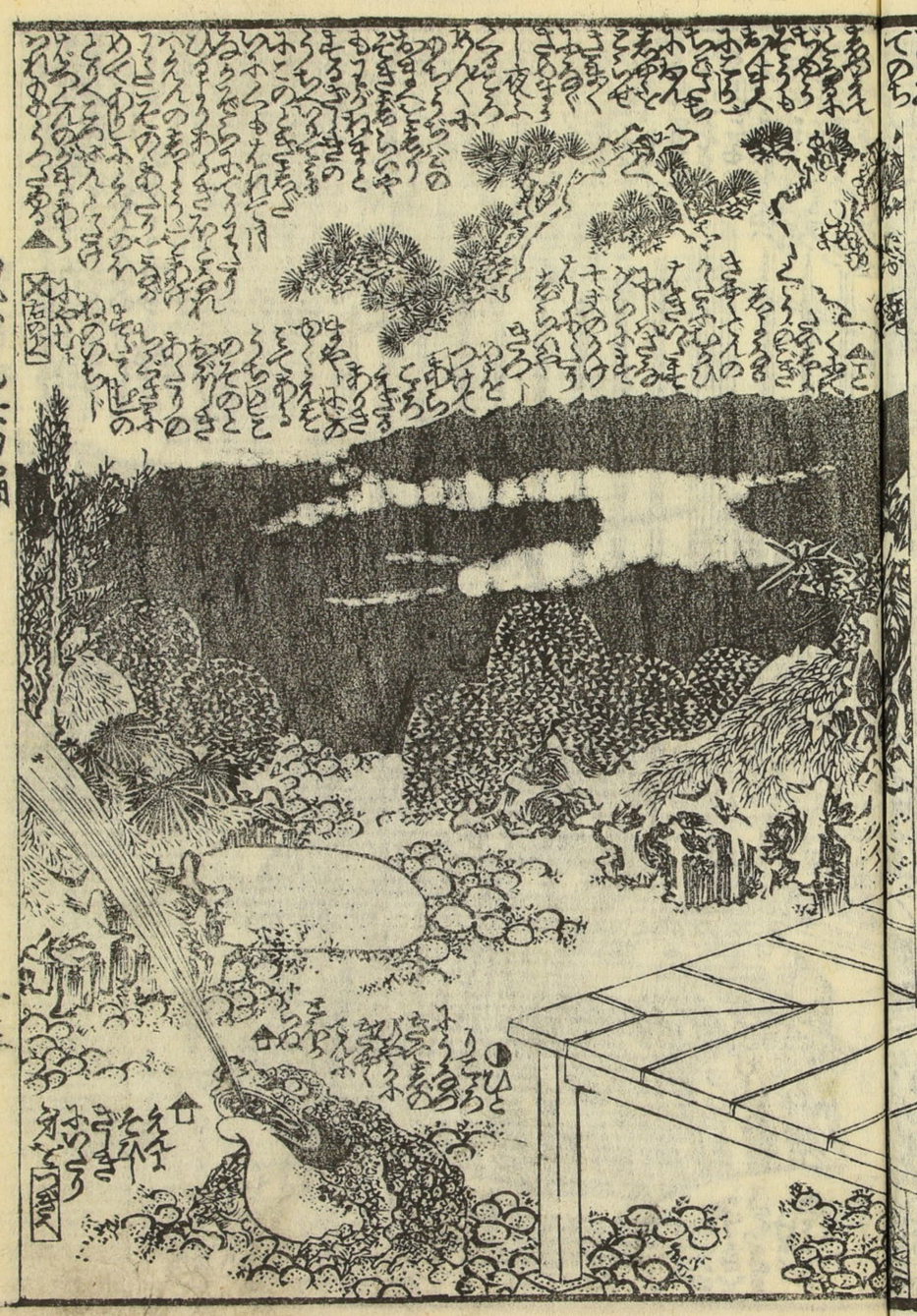
仆題曲五團扇

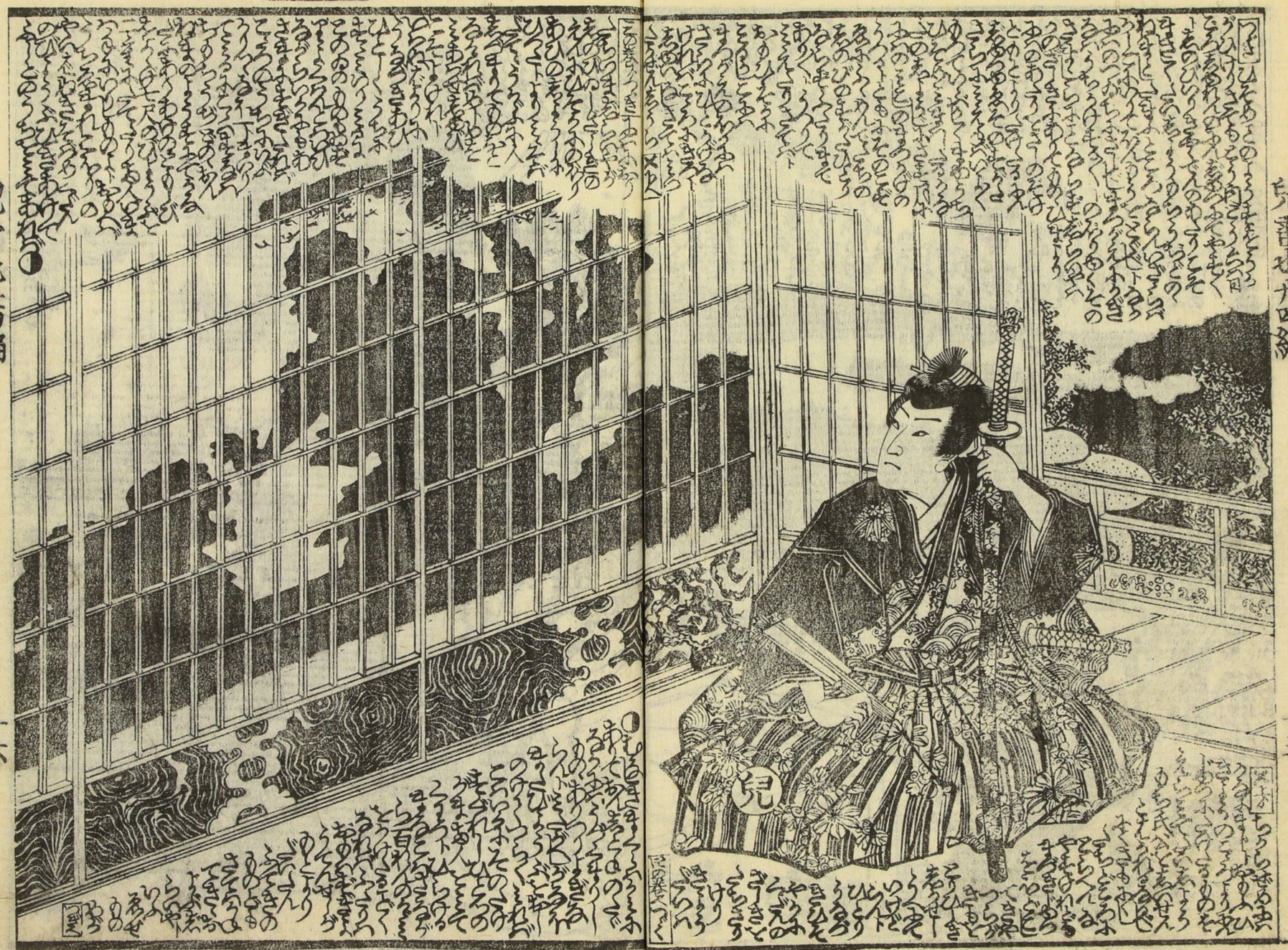
下


源氏物語七十四編
下冊
甘泉齋梓

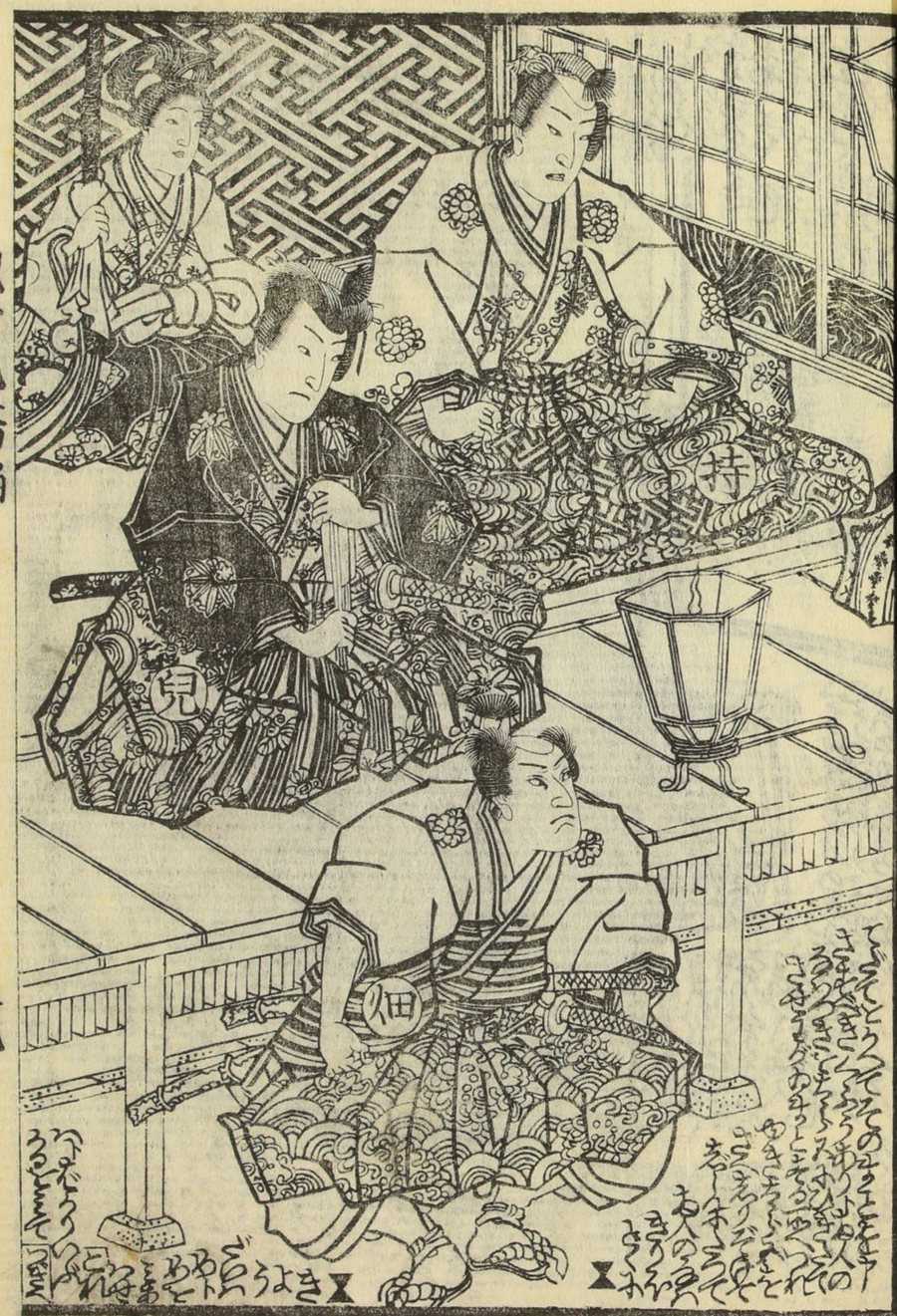

越中山門護摩堂

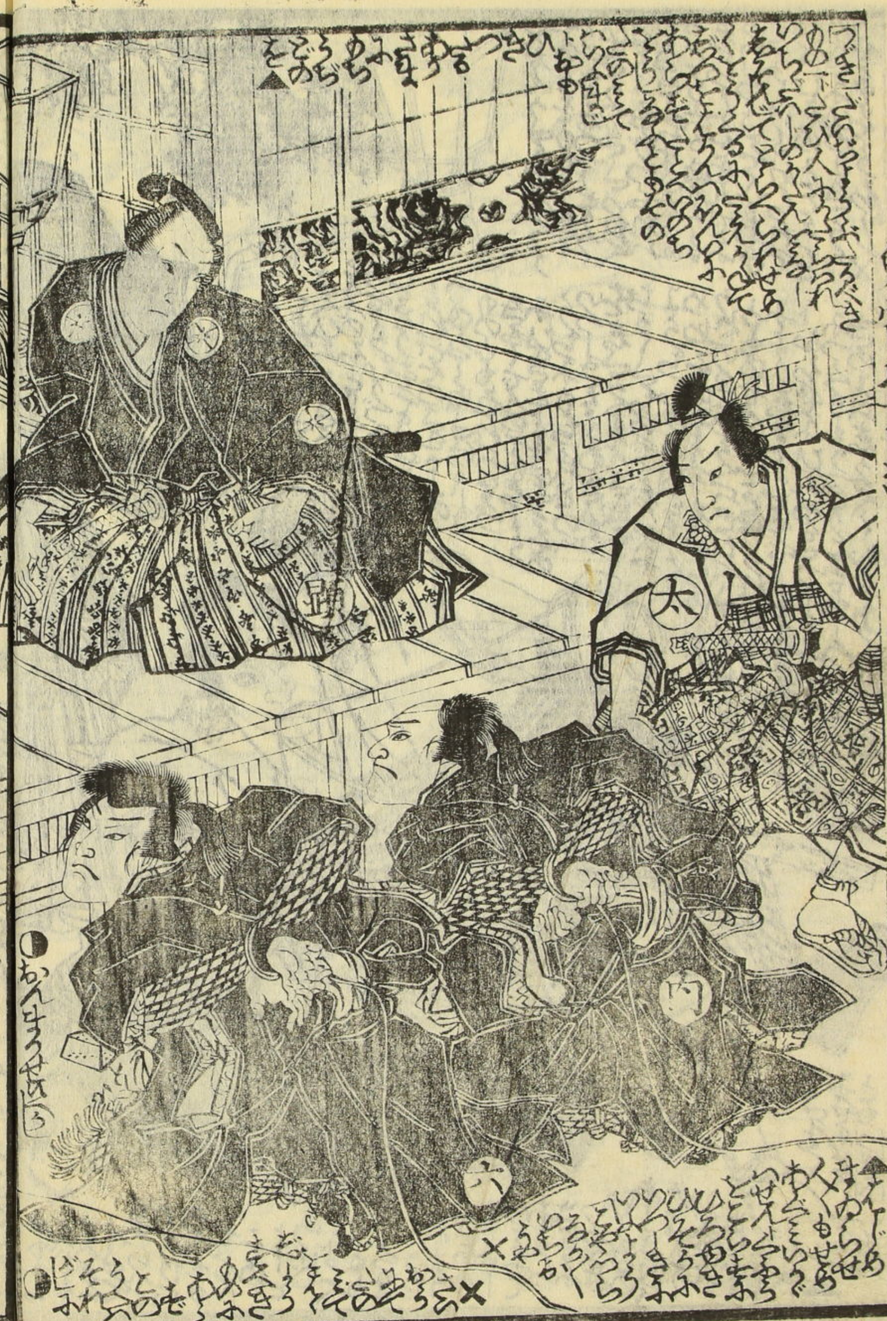

兒





月雪花四絵
つき
太
兒
力
田
力


持
兒
畑


太
内
六

種員作國貞画

つまひらきまるこくよろこひとのうこたこうあそれのまえ氏らうこんら
ゑさんがまつさくきこうくこうくふきやさねんこそれらのはあくこうめどりをこうくこうくこうくこうえこうくまるこうくまるこうくこれみんなこうくこうくこうく

清洲評定ハ巻収る **七編** の巻ハ大徳寺の焼香場ハ編初て賤ヶ嶽の大合戦
洲川一益神戸信孝の没落〳〵悲と爰ニ **八編** ハ西國の長曽我部攻ハ爰ニ
智勇兎神と強ク〳〵 **九編** ハ西國韓信より九州
平清の夾中〳〵貴田孫兵衛ハ相撲と加ハ **十編** ハ小田原沖陣ハ関東八州
ハ十八城と攻援像〳〵凱歌と唱〳〵還軍し給ひ遂ハ太閤の稱と得るまでの
最精みを **十編** **十一編** 二十巻と込〳〵朝鮮出兵の征伐と仔細ハ編輯
至ル迄ハ競みて覽と帰ハ

新編金瓶梅全輯

自初編至十編大尾

曲亭馬琴翁作
一陽齋豊國画

書肆甘泉堂芝神明前和泉屋市兵衛版

源平打越双六

氏平氏白と赤の手ちがひをかの
ちがひちがひをまもり
をとていとく
かすりとうき者こと
うり

女郎花五色石臺 八編 九編 折下ち種員作 一雄齋國貞画

新編金瓶梅 初編ハ十編ハ大尾 曲亭馬琴作 一陽齋豊國画

黄金水大学盃 七編 八編 土板 石永 文水作 秋川國貞画

一猛齋芳虎画
三十六歌仙詠色双六
身者ハ枝つきかく〳〵ぐ
ざい〳〵きれ仕ぎらとのこと
ゆゑ〳〵ふてけ〳〵れとちぶれる
ハ今〳〵ふれ〳〵ける双六なり

柳下亭種員作
兒雷也豪傑譚
一壽齋國貞画
芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛板
卅一編 卅二編 卅三編

三十四編